

9/9(金)

## 【分科会 13】様々な環境における I P S (個別就労支援)

ファシリテーター：香田真希子 (NPO 法人地域精神保健福祉機構・コンボ ACT-I P Sセンター)

シンポジスト：池田真砂子 (根岸病院) / 大島みどり (障害者就職サポートセンター・ビルド)

本多俊紀 (コンポステラ)

日時：9月9日(金) 14:00~16:30

対象者：「働くこと」に関心のある、当事者・家族・支援者

I P S (Individual Placement and Support) は、数多くの研究で、就労率を高めることや、就労期間を延長させることが実証されている代表的な科学的根拠に基づく実践プログラム (EBP) の1つです。

I P Sでは、本人に「働きたい」という希望があれば一般の職につけるという強い信念に基づき、ケアマネジメントの手法を用いて、本人の好みや長所に注目した求職活動と同伴的な支援を継続するなど、特徴ある活動を展開します。

そして、可能性を信じること、「障害をもっていても働くこと (一般就労) ができる」という信念を、大切にしています。

当日は、「メンタルブロック」に関するグループワークを行いました。

自分は、支援者は、家族は・・・どんな「メンタルブロック」(こころの壁・バリア・偏見) をもっているのか、それに対してどう対処して行動していきたいのか各自で考えた後、グループメンバーから、対処するためのアイデアや応援メッセージの手紙を各自がもらいました。

「うちでは無理とか、自分は働けないんじゃないか、雇ってくれる企業はないんじゃないかなどの思い込み」=メンタルブロックをどう壊していくか、前向きに建設的なアイデアがたくさん出されました。

また、IPS を実践している就労支援の専門家 (ES) の方たちから、IPS を始めていく上でどんなメンタルブロックがあったのか、そして、そのメンタルブロックをどう壊していったのか、具体的な実践報告もありました。

私たちの可能性を信じる力が試されています。明るく楽観的に、自分のリハビリの旅を歩んでいきたいものです。

《香田真希子 (NPO 法人地域精神保健福祉機構・コンボ ACT-I P Sセンター) 》